

2022年度 野球規則改正

- (1) 3.09【注3】③の第2段落を次のように改める。(下線部を追加)

マーク類を布片、刺繍または樹脂製の成型物、あるいはスタンプによって表示する場合(エナメル素材のように光る素材での表示は認められない)は、親指のつけ根に近い個所に限定し、その大きさは、縦3.5㌢、横3.5㌢以下でなければならない。

- (2) 5.07(a)(1)【注1】を削除し、同【注2】を同【注】とする。

~~【注1】アマチュア野球では、投手の軸足および自由な足に関し、次のとおりとする。~~

~~① 投手は、打者に面して立ち、その軸足は投手板に触れておき、他の足の置き場所には制限がない。ただし、他の足を投手板から離して置くときは、足全体を投手板の前縁の延長線より前に置くことはできない。~~

~~② 投手が①のように足を置いてボールを両手で身体の前方に保持すれば、windアップポジションをとったものとみなされる。~~

【注】 投手が投球に関連する動作をして、身体の前方で両手を合わせたら、打者に投球すること以外は許されない。したがって、走者をアウトにしようとして塁に踏み出して送球することも、投手板を外すこともできない。違反すればボークとなる。

- (3) 5.07(a)(2)【注1】を削除し、同【注2】以降を順次繰り上げる。

~~【注1】アマチュア野球では、本項〔原注〕の前段は適用しない。~~

【注2】⇒【注1】 (1)(2)項でいう“中断、とは、投手が投球動作を起こしてから途中でやめてしまったり、投球動作中に一時停止したりすることであり、“変更、とは、windアップポジションからセットポジション(または、その逆)に移行したり、投球動作から塁への送球(けん制)動作に変更することである。

【注3】⇒【注2】

【注4】⇒【注3】

【注5】⇒【注4】

【注6】⇒【注5】

(4) 5.09 (b) (1) 【注1】および【注2】を削除する。

~~【注1】—通常走者の走路とみなされる場所は、塁間を結ぶ直線を中心として左右へ描く3呎、すなわち6呎の幅の地帯を指すが、走者が大きく膨らんで走っているときなど最初からこの走路外にいたときに触球プレイが生じた場合は、その走者と塁を結ぶ直線を中心として左右へ各3呎が、その走者の走路となる。~~

~~【注2】—本項の“ただし、”以下は、野手が走者の走路で打球を処理しているとき、これを妨げないために走者が走路外を走っても、アウトにならないことを規定しているものであって、打球処理後に触球プレイが生じたときには、本項前段の適用を受けることはもちろんである。~~

(5) 6.01 (a) (1) の最終段落として次を追加する。

もし、捕球されずに本塁周辺にとどまっている投球が、打者または審判員によって不注意にそらされた場合、ボールデッドとなって、塁上の走者は投手の投球当時占有していた塁に戻る。この投球が第3ストライクのときは、打者はアウトになる。

(1) 捕手に捕球されていない第3ストライクの後、打者走者が投球を処理しようとしている捕手を明らかに妨げた場合。

打者走者はアウトになり、ボールデッドとなって、他の走者は投手の投球当時占有していた塁に戻る。

もし、捕球されずに本塁周辺にとどまっている投球が、打者または審判員によって不注意にそらされた場合、ボールデッドとなって、塁上の走者は投手の投球当時占有していた塁に戻る。この投球が第3ストライクのときは、打者はアウトになる。

(6) 6. 01 (i) を次のように改める。

① 【6. 01 i 原注】を追加する。

【6. 01 i 原注】 本項の“捕手、”については、本塁のカバーに来た投手を含む野手にも適用される。

② 同(1)本文中の「または本塁のカバーに来た野手(投手を含む、以下「野手」という)」と、同(1)および同(1)【原注】中の「または野手」を削除する。

(1) 得点しようとしている走者は、最初から捕手~~又は本塁のカバーに来た野手(投手を含む。以下「野手」という。)~~に接触しようとして、または避けられたにもかかわらず最初から接触をもくろんで走路から外れることはできない。もし得点しようとした走者が最初から捕手~~または野手~~に接触しようとしたと審判員が判断すれば、捕手~~または野手~~がボールを保持していたかどうかに関係なく、審判員はその走者にアウトを宣告する。その場合、ボールデッドとなって、すべての他の走者は接触が起きたときに占有していた塁(最後に触れていた塁)に戻らなければならない。走者が正しく本塁に滑り込んでいた場合には、本項に違反したとはみなされない。

【原注】 走者が触塁の努力を怠って、肩を下げたり、手、肘または腕を使って押したりする行為は、本項に違反して最初から捕手~~または野手~~と接触するために、または避けられたにもかかわらず最初から接触をもくろんで走路を外れたとみなされる。走者が塁に滑り込んだ場合、足からのスライディングであれば、走者の尻および脚が捕手~~または野手~~と接触する前に地面に落ちたとき、またヘッドスライディングであれば、捕手~~または野手~~が接触する前に走者の身体が先に地面に落ちたときは、正しいスライディングとみなされる。捕手~~または野手~~が走者の走路をブロックした場合は、本項に違反して走者が避けられたにもかかわらず接触をもくろんだということを考える必要はない。

本項の“捕手、”については、本塁のカバーに来た投手を含む野手にも適用される。

(7) 巻頭(13ページ)の「投球姿勢」を改める。

別紙参照

以上